

# 学校の詩

うた

令和2年10月発行 学校便り

## 学校の教育目標 自律貢献

文責：校長 藤井浩彦

### ◆筑紫区新人大会が終わりました

9月26日より始まった筑紫区中体連新人大会がすべての競技で終了しました。今回、御陵中学校は残念ながら筑前地区大会に進むチームはありませんが、それぞれの部活動でここまで努力をし、取り組んできたことが必ず次に活かされると思います。今回の悔しさをバネに、来年の夏の大会へ向けて今まで以上に日々の練習を大切にしたいと思っています。

日本のトップアスリートの国際競技力を向上させることを目指し、スポーツとカラダの3原則「トレーニング」「栄養」「休養」に基づいて作られた国立のアスリート専用トレーニング施設「味の素ナショナルトレーニングセンター」に、

『人間力の向上なくして競技力の向上なし』の横断幕が掲示してあります。トップアスリートであっても、挨拶や礼儀、日常の当たり前を大切に、総合的な「人間力」を高めることが大切であるということです。ぜひ、御陵中の生徒にもそのことを覚えてほしいと思います。



【男子バレー部の試合中の様子】

### ◆10月19日より文化週間(保護者の分散による授業参観及び展示見学実施)

本年度は、例年行っているまどかびあでの文化祭の中止に伴い、10月19日から学校での文化週間として、生徒の展示見学及び吹奏楽の演奏発表会を本校で行います。また、保護者の方におかれましては、分散での授業参観と展示見学をしていただきますように、先日プリントでもお知らせをいたしました。なお、3密を避けるため、生徒1名に対して保護者1名としています。

◆授業参観 11:00~11:50 ◆展示見学 12:00~12:40

お子様の出席番号を確認し、別途配付の「健康確認票」を持参の上、下記の日程でお越し下さい。(事前に担任へ変更の連絡をいただいております保護者の方はその限りではありません)

月日		1年生	2・3年生
10月19日(月)	出席番号	1~9	1~7
10月20日(火)		10~18	8~14
10月21日(水)		19~27	15~21
10月22日(木)		28~36	22~28
10月23日(金)		37~42	29~36



### 『ひたむきに』

#### 校長コラム

先日、嬉しい電話がありました。相手は、ある高校の3年生・・・

彼との出会いは、6年前の夏。前任の中学校で行われていた夏の小学6年生部活動体験のときでした。とても小柄な小学生でした。半年経って、彼は入学し男子バレー部に入ってくれたのです。そのときの身長は136cmくらいではなかったかと思います。毎日真面目に練習する姿、きびきびとした動き、彼は何事にも一生懸命でした。

それから数カ月後のことです。ある雨の朝、朝練習のために私は職員室から校舎を出て、体育館へ行こうとしていました。体育館まであと10mほどのところに来たところで、傘をさした彼が体育館入口とは違う方向にいた私のもとへ、猛ダッシュで近づいてきました。「おはようございます！」と元気に挨拶した彼に、「おはよう、どうした？」と私が聞くと、そっと傘を差しだし「先生が濡れるから、使ってください」と笑顔で言うのです。私はびっくりして「いやいや、大丈夫。それじゃあなたが濡れるでしょ？でも、ありがとう」と声をかけま

した。私は、中学1年生でこんなにも気配りができる子がいることに驚きました。素敵な子だなあとそのとき思ったのでした。彼の行動は、それから本当に素晴らしいものでした。

私は、バレー部の子ども達には「まずは、授業や日常生活を大切に」「挨拶・掃除・整理整頓・道具を大切に」「目配り・気配り・心配り」「感謝の心」「きつくて諦めない気持ち」などを常に言い続けました。「バレーで日本一にはなれないかもしれないけれど、例えば挨拶の日本一素晴らしいチームにはなれる！それこそが、将来生きていく上でとても大切になる。日頃の当たり前を大切に、そして人間力を高めることが技術の向上にも必ず繋がる」と話していました。

彼を含めバレー部の子ども達は、誰にでも本当によく挨拶をしていました。いろいろなところで褒めてもらいました。学級にいるときも「気配りがよくできる」と担任の先生や学年の先生などにも褒められていました。保護者が重い荷物を持って体育館に入ってくるのを見れば、すぐに数人が走ってかけより、「持ちます！」と荷物を運んでいました。身の周りの「人」「もの」「こと」に常にアンテナを張り巡らし、人が喜ぶこと、嬉しくなることを心がけてくれました。

あるとき、守りの要である彼は、練習試合でミスが続いたことがありました。「具合でも悪いのか？」と尋ねると、「いいえ、大丈夫です！ミスばかりですみません」と彼が言うのです。その後も必死で頑張る彼だったのですが、やはりいつものプレーではないと感じた私は、彼のお母さんに「今日はどうしたんですか？」と聞くと、言いくるげに「実は・・・朝から熱が高くて。でも、本人がどうしても試合に出たいから先生には言わないでくれと言うものですから・・・」私は、やはり具合が悪かったのかとわかり、すぐに彼を呼び、「具合が悪いのに無理したんやね？今日は今からすぐに帰って休みなさい」と言いました。彼は目に涙をいっぱいため、最後は「はい」と言って帰ったのでした。無理をすることがいいということではありません。しかし彼の、チームの一員としての責任感ややる気を本当に素晴らしいと思ったのでした。

新チームになり、私は迷わず彼をキャプテンにしました。彼は、どんなにきつい練習も絶対に弱音を吐かず、常に声を出し、誰よりも努力する子でした。新人大会のときは、筑紫区6位でぎりぎり筑前大会へ出場しました。最後の夏の大会は、筑紫区3位、県大会出場まであと一歩の筑前地区大会ベスト8までいくことができました。そこにたどり着くまでに、新人大会の県ベスト8のチームを2チームも破るという奇跡を、彼らはやってのけました。最後の試合後、目に涙をいっぱいためた彼らが私のもとへ集合しました。私は、もうこのメンバーでバレーをすることもないのかという悔しく寂しい思いで胸がいっぱいになりました。彼らが十分すぎるくらい頑張ってきたことはわかっていたから、「本当によく頑張った。ありがとう。お疲れ様！」と言ったのですが、彼らは、私を見つめたまま動こうとしなかったのです。彼らは周りにはばかりことなく泣いていました。私は、子ども達に「日本一にならない限りは、どこかで負ける。でも、そのときまでにどれだけ努力したかが大切。それまでの努力こそが、その後の人生の大きな糧となる」と話していました。彼らは、きっと大切な宝物を手に入れたと私は思いました。キャプテンの彼はそのとき身長150cm弱くらいだったと思います。私が思うに、福岡県の中学校バレー部で、もっとも小さな偉大なキャプテンだったと思います。その後、彼はバレーボール部の強豪校に進み、現在最後の「春の高校バレー大会福岡県予選」をリベロ(レシーブ専門)として出場し戦っています。

そんな彼から夏頃に来た手紙の一文です。

今でも中学校の頃を思い出すことがあります。中学校の方が、自分の頭にいろんなことが残っていて、本当に本当に中学校の頃、恵まれていたなととても感じます。その中学校での出来事が今にも活かされていると思います。本当に先生は、自分の中で1番の自慢の先生です。とても感謝しています。本当にありがとうございます。これからも周りへの感謝を忘れず、「ひたむきに」頑張っていきます。これからもお体に気を付けてください。

常に感謝を忘れず、まさに何事にも「ひたむきな」彼は、努力を続け「人間力」を日々向上させているのだと思います。バレー強豪校でもレギュラーとして活躍し、学習面でも成績はクラス上位であることの原因がそこにあります。そんな素敵な彼から、先日久しぶりに電話があり、近況と感謝を伝えられ嬉しくなった私は、ぜひ彼のことを学校便りで皆さんに伝えたいと思ったのでした。きっと、彼のひたむきな姿勢に私たちの学ぶべきことがあると・・・

御陵中にも素敵な子ども達がたくさんいます。私は、素敵な子ども達に、いつも教えられています！

